



ワーケーションまちづくり・ラボ

参考資料：モビリティ社会実験

【 13 】

■ 温泉MaaSから見たモビリティからできることできないこと



「温泉MaaSって言いたいよね」
から始まった
参加者の移動支援プロジェクト。

交通移動の費用を意識させない

千曲市ワークショップでは、温泉MaaSの取り組みを通して、参加者に自由に移動してもらうなかで、いかに「交通移動の費用を意識させないか」を試してきました。

公共交通利用において交通費は一つの障壁になります。ドイツでは公共交通利用促進のために、2022年に3ヶ月限定で9ユーロの全国乗り放題チケットを発売し、5000万枚以上を売り上げました。（一方で公的財源による収入補填は大きい）

国内でも1日限定で無料デーを設定する例がありますが、恒久的にできるわけではありません。

そこで全体費用の中に一定の交通費を含めてしまうことで、参加者は交通利用時の費用負担を意識することを低減でき、より公共交通利用を促すことができると考えています。

千曲市ワークショップでは、温泉MaaSで使えるデジタルチケットをワークショップ参加費用に含めた形で配布しています。参加者は、これを使ってタクシーにも乗ることができ、余ればお土産も買えるようにしました。また、2022年度では千曲市としなの鉄道株式会社のご協力により千曲市循環バス（全路線）としなの鉄道（特定の時間帯と区間）の1日乗車券を配布しました。

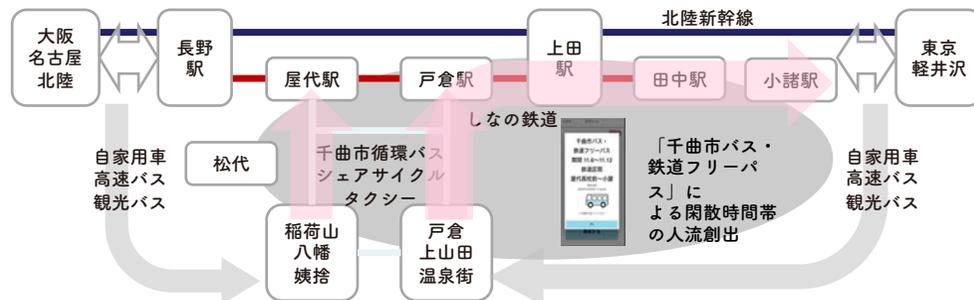
温泉MaaSプロジェクト

第4回千曲市ワークショップにおいて開催された温泉MaaSアイデアソンから本プロジェクトは生まれました。タクシー配車予約機能から始まり、さまざまな機能を追加してきました。2022年度は、さらに使いやすさを目指し、千曲市循環バスやしなの鉄道のデジタルチケット化を行いました。

地域滞在者の公共交通利用促進

千曲市ワークショップでは、数日～最大1週間程度の滞在をしてもらうプログラムを提供しています。これまで滞在中に千曲市内のワークスポットや観光スポットを巡ってもらうことに取り組んできましたが、2022年度はこれをしなの鉄道沿線自治体に広げられました。千曲市に滞在しつつ、滞在中に自由に公共交通を利用して、沿線ワークスポットや観光スポットを訪れてもらい、その地域で活動されている方々との交流機会を作ってきました。

鉄道と地域交通の連携は、地域に訪れる方に向けた施策が一般的ですが、本取り組みはその逆で、地域側から鉄道と地域交通の連携をつくり、利用を促すものになっています。



■ 温泉MaaSから見たモビリティからできないこと

千曲市循環バス「デジタル1日乗車券」実証実験

温泉MaaSにおいて、これまで千曲市循環バスの利用促進を行ってきました。

2022年度は「デジタル1日乗車券」をワーケーション参加者に配布することで、より利便性を上げることに取り組みました。

【千曲市循環バスにおける実証実験】

- ・第1回 2022年6月23日(木)～25日(土)
- ・第2回 2022年7月14日(木)～17日(日)
- ・第3回 2022年8月7日(日)～10日(水)

千曲市循環バス+しなの鉄道の取り組み

- ・信州まるかじりワーケーション 2022年11月6日(日)～12日(土)
千曲市循環バス全路線
しなの鉄道(屋代高校前～小諸間、平日9:00～15:00のみ)
- ・Boot Campワーケーション 2023年2月18日(土)、24日(金)
千曲市循環バス全路線
しなの鉄道(屋代高校前～軽井沢間、9:00～15:00のみ)



信州千曲観光局に
作成いただいた
モニター募集パンフレット

実現に向けた関係各所との事前調整と連携

公共交通との連携には、関係各所との事前の調整と連携が不可欠になります。

千曲市循環バスでは、1日乗車券は紙媒体のみ運用されていまして、デジタル化するには千曲市とともに運行を受託している4社の交通事業者の方々と事前調整が必要となりました。関係者の集まる公共交通活性化協議会(2022年6月)の前向きなご協力によって、実証実験は実現することができました。

2022年11月のワーケーション企画に合わせて、しなの鉄道株式会社と協議を行わせていただき、前向きにご協力いただけることとなり、改札口でデジタルバスの画面を見せることで乗車できることが実現しました。ワーケーションにおける遊休資産活用という観点で、平日閑散時間帯利用に限定しました。

フリーパスの運用には、信州千曲観光局の全面協力もいただき、当日の問い合わせ窓口を担っていただきました。



温泉MaaSの
デジタルフリーパスの
画面

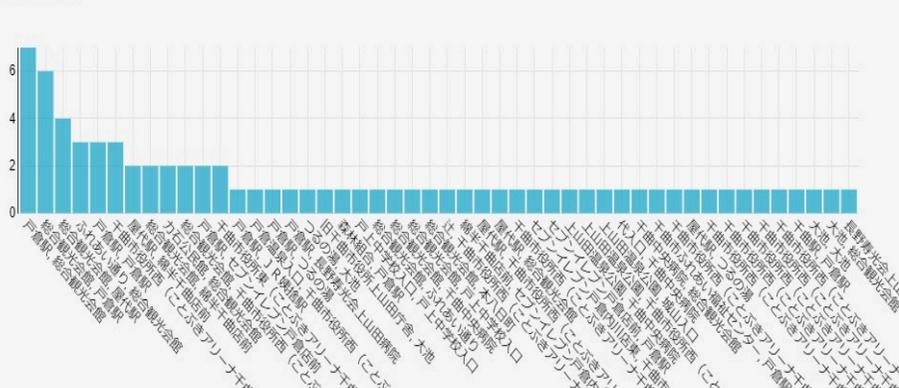
■ 温泉MaaSから見たモビリティからできることできないこと

千曲市循環バス「デジタル」日乗車券 実証実験実績と2021年度タクシー移動実績との比較

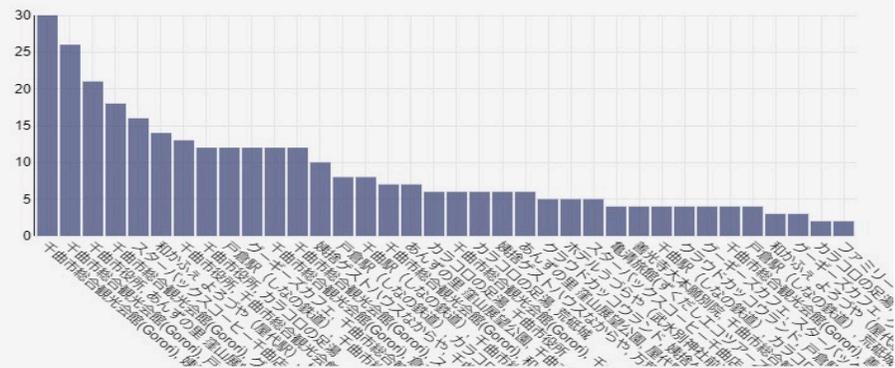
路線バスのODランキング(2022年6~8月)

タクシーのODランキング(ワーケーション期間中2021年度累計)

ODランキング



OD別人数



バス移動では利便性の高い総合観光会館と戸倉駅、市役所、屋代駅のそれぞれの移動が最多となった。
 タクシー移動では、バスの利便性が低い場所への移動が多くなっており、移動ニーズによって移動手段を使い分けられる傾向がわかりました。

■ 温泉MaaSから見たモビリティからできることできないこと

千曲市循環バス+しなの鉄道「デジタル1日乗車券」の利用実績（2022年11月6日(日)～12日(土)実施分）

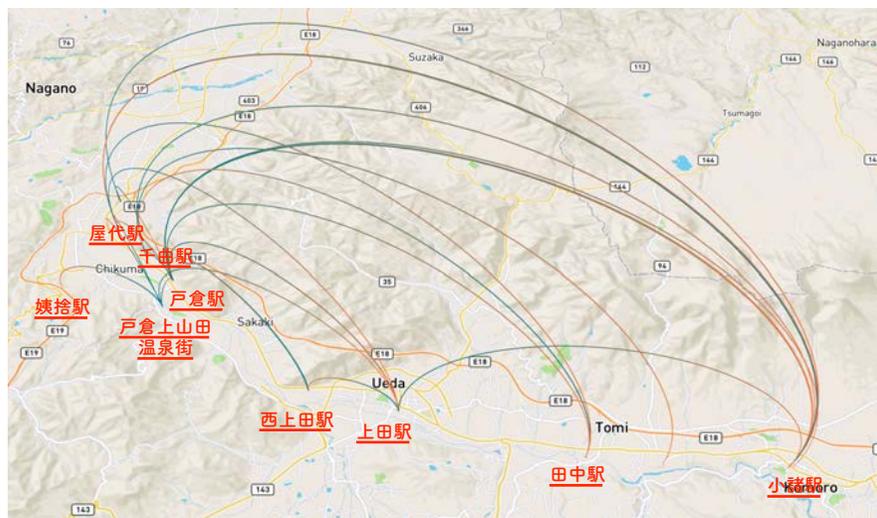
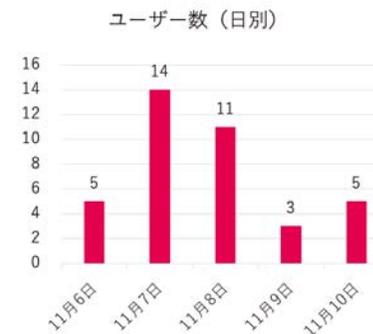
2022年11月の「信州まるかじりワーケーション」に合わせて初めて本格的にデジタル1日乗車券を配布しました。

利用回数と移動状況を見ると、前半（6日～9日）と後半（9日～12日）で利用回수에偏りがある。特に後半の11日～12日は利用がゼロとなりました。参加者数は前半13名、後半5名、通し参加5名で、前半の参加者が多かったとはいえ、後半は利用は少なくなりました。前半の訪問先は松代、上田、東御、小諸であり松代以外は利用しやすい地域でしたが、後半は松代、小諸、佐久であり小諸以外は利用しにくい地域となっていました。佐久には仲間数名で自動車で行った参加者も居り、公共交通のアクセス性の悪い移動の公共交通シフトが難しいことが実績としても表れたものとなりました。

ユーザー数と利用回数（日別）

11/6～11/10の実証期間中、フリーバスを利用したユーザー数は延べ38人、利用回数は50回

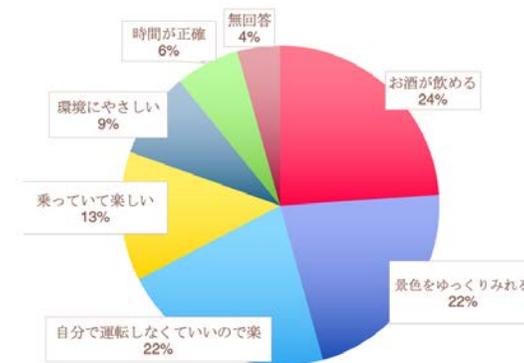
	11月6日	11月7日	11月8日	11月9日	11月10日	合計	
ユーザー数	5	14	11	3	5	38	
利用回数	バス	2	2	2	0	2	8
	鉄道	2	12	14	2	2	32
	不明	4	2	1	2	1	10
	合計	8	16	17	4	5	50



アンケートの回答結果

「お酒」「景色」「運転からの開放」で約70%。信州の有利な点は「景色」。

お酒が飲める	11
景色をゆっくりみれる	10
自分で運転しなくていいので楽	10
乗っていて楽しい	6
環境にやさしい	4
時間が正確	3
無回答	2
合計	46



■ 温泉MaaSから見たモビリティからできることできないこと

千曲市循環バス+しなの鉄道「デジタル1日乗車券」の利用実績（2023年2月18日(土)・24日(金)実施分）

2023年2月の「Boot Campワーケーション」に合わせて2回目となるデジタル1日乗車券を配布しました。

1回目とは異なり、ワーケーション期間中ではなく、ワーケーション期間前後のオプション滞在日を対象とした配布としました。

結果として、利用実績はゼロとなりました。

オプション滞在日にはデジタル1日乗車券を利用して周辺地域に訪問をしてもらうことを意図しましたが、特に事務局から積極的に公共交通利用による訪問を促すこともしなかったため利用されない結果となったと考えられます。

参加者の自主的な行動で公共交通利用を促進することの難しさを改めて認識することとなりました。

	2/18(土)	2/19(日)	2/20(月)	2/21(火)	2/22(水)	2/23(木・祝)	2/24(金)
朝	オプション滞在	軽井沢	軽井沢	ろくもん	千曲	千曲	オプション滞在
午前		10:30-11:30 カーリングプログラム 全体説明・自己紹介 @軽井沢観光会館	9:00-11:00 カーリングプログラム @軽井沢アイスパーク (プログラム後別途トレーニング可)	トレインワーケーション 軽井沢駅～田中駅 ～戸倉駅 ろくもんラウンジ+ ろくもん内滞在: 9:00-12:00	8:00-9:30 早朝コンディショニング セミナー (温泉、サウナ、風呂) @Gorori	6:00-7:30 瞑想ハイキング @善光寺 大本願別院	
昼食	終日 各地自由ワーク @飯綱町、長野市、 千曲市、上田市、東 御市、小諸市、佐久 市、御代田町、軽井 沢町など	12:00-13:00 ランチ交流会 @SAWAMURA	アイスパーク ～軽井沢駅 (よぶる軽井沢、 循環バスで自由移動)	ろくもん内ランチ: 12:00-13:00 軽井沢駅:13:00頃発 田中駅:14:00-16:30 (とうみワイングタクシー) 戸倉駅:17:30頃着 Wi-Fi謎解き・体操	10:00-16:00 湯治ワーク @Gorori、旅館など (温泉MaaS回遊)	9:30-13:30 チカラウルトラ ソーシャルビジネス キャンプ @千曲市全域 戸倉 上山田温泉街 サバゲー訓練 ～焼肉ヒルナン (温泉のお湯運び)・薪 割り・ストーブアトサ ウナ～こたつ郷土料理	9:00-18:00 各地自由ワーク @飯綱町、長野市、 千曲市、上田市、東 御市、小諸市、佐久 市、御代田町、軽井 沢町など
午後		観光会館発: 14:00 ～ライジングフィールド	昼食、午後は 自由時間			14:00-16:00 テラ事業 アウトプットゲーム @千曲市 戸倉 上山田温泉街	
夕食		14:30-21:00 冬キャンプ体験 (BBQ、骨迫杖ワーク ショップ、焚き火トーチ) @ライジングフィールド	夕食自由	18:30-21:00 一流見極めディナー @團山荘	18:30-20:30 ビジネスアスリート 婚活ディナー @和からえよろづや		18:00-21:00 スペシャル 出張フロスタナイト @イルルア
備考	宿泊任意 しな鉄フリーパスあり	キャンプ宿泊	軽井沢宿泊	NEOネオン体験可 千曲市宿泊	NEOネオン体験可 千曲市宿泊	NEOネオン体験可 宿泊任意	宿泊任意 しな鉄フリーパスあり

まとめ

2022年度の温泉MaaSの取り組みは、主に千曲市を中心としたしなの鉄道沿線地域への公共交通による広域周遊を促進することを企図して実施してきました。

実施の観点は以下の通りでした。

- ①交通費を意識させないように参加費内包型とした
(個別にデジタルフリーパスを購入しない)
- ②千曲市ワーケーションのLINE公式アカウントから簡単に使える
デジタルフリーパスとした
- ③千曲市循環バスとしなの鉄道(区間・利用時間帯限定)に乗車できるようにした
- ④ワーケーションプログラムに広域周遊を組み込み、公共交通利用を想定した
ものとした
- ⑤ワーケーションのオプション滞りで広域周遊できるようにデジタルフリーパスを
配布した

項目4の取り組みでは、「ワーケーション」という地域における誘客の取り組みにおいて、特に鉄道沿線地域と連携することで、鉄道利用を促すことができる可能性を示すことはできたと考えられます。一方で、項目5では前述の通り公共交通を全く使われないという結果も得ることができました。

これは、項目1～3という利用しやすい仕組みの整備を行うだけでは、公共交通の利用を促すことは難しいと捉えられます。

項目1～3は交通事業者に取り組んでいただき、一方で、項番4のような取り組みを地域側で実施し、両者が連携することでより公共交通利用を促すことができるのではないかと考えます。

■ 温泉MaaSから見たモビリティからできることできないこと

交通を維持するということ

温泉MaaSの取り組みでは、ワーケーションで来訪される方々に、ワークスポットや観光スポットを自由に移動して周遊してもらうことを目的に始めました。そのため、温泉MaaSの仕組みは、ワーケーション期間中のみ使えるようになっています。

ワーケーション開催を重ねてくると、常連の方々からはワーケーション期間中以外にも、個人的に訪れたときに温泉MaaSの仕組みが使いたいという要望も受けようになりました。

しかし、タクシーや路線バス、鉄道といった交通事業者と連携した仕組みを提供するという事は、公共交通という「社会インフラ」の一部を担うことになります。そうなれば利用者からの問い合わせ対応、何らかの不具合により利用できなかった時の対応、法令に基づいた対応など、任意団体である我々「ワーケーションまちづくりラボ」による運営では荷が重すぎることも事実でした。

今年、上山田温泉街を営業エリアとしていたタクシー会社の営業所が閉鎖されました。温泉街を含むエリアで運行されるタクシー車両は減ってしまいました。国内の各地域で従来の交通ネットワークを維持できなくなっており、再編・見直しが必要という議論が始まっています。地域の交通ネットワークを維持するには交通事業者だけの努力では難しく、利用者となる地域の生活・仕事・観光の取り組み（まちづくりという取り組み）と連携して、地域全体で交通ネットワークを維持すること（利用してもらうこと）を真剣に考える必要があります。

公共交通を使う意味付け

温泉MaaSの取り組みを通して、ワーケーション参加者の方々に公共交通による移動利便性を提供してきましたが、取り組み実績を振り返ると、前述の通り、期待通り利用されないという結果にもなりました。

公共交通を利用してもらうには、以下の観点が重要であることがこれまでの取り組みから見えてきました。

- ① 移動自体が楽しい
- ② 仲間と一緒に移動することで楽しい時間を味わえる

ワークスポットや観光スポット間を移動するときに、移動を楽しめる時間とする「観光列車」という先例に、これを取り入れたトレインワーケーションは、離れた地域の取り組みを連携させたときに弱みである「移動」をコンテンツ化して強みに変えることで公共交通の利用を作ることができました。

また、路線バスのデジタルチケット実証では、バスの移動は、たまたまバスに乗り合わせた参加者同士が楽しく話す時間となりました。

公共交通というひとつの空間で参加者同士や仲間が移動することで、人と人が豊かな時間を共有し味わうことができるという贅沢なコンテンツになりうるものが、我々の温泉MaaSの取り組みの大きな成果であったと思います。

今後、これまでに得られた知見や成果をベースとして、社会インフラとしての交通ネットワークを維持・提供する方々（自治体、交通事業者）との連携を進めていければと考えています。